

有限会社山根酒造場

鳥取県鳥取市



生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

『醸は農なり』をモットーに、素材である米と古くから伝わる手造りの製法を重視し、酒造りを究めていく

- 多品種小ロット生産に対応しボトリング工程の一新・最適化による生産性・品質向上を図った
- 長年培ってきた業歴・信頼を背景に構築してきたネットワークを活用し、日本酒の海外展開を実施
- 直営の酒造資料館・直売所へ域外からの観光客を受け入れることで、地域の魅力発信に貢献

企業基本情報

所在地	鳥取県鳥取市青谷町大坪 249
電話/FAX	0857-85-0730/0857-85-0465
URL	http://hiokizakura.jp
代表者	代表取締役 山根 正紀
設立	1887年
資本金	540万円
従業員数	8人



会社概要

日本酒の蔵元として1887年に鳥取市青谷町で創業。春を待つ心に酒を酌み交わす意を込めて『日置桜』と名付け、年間約640石の日本酒を製造している。手造り製法を厳守し、主に付加価値の高い純米酒の製造を行っている。近年では酒造りの工程でできる副産物の酒粕を活用した、新商品『熟成酒粕 無垢』を開発し、食生活における多様な用途を消費者へ提案している。



酒蔵外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

多品種小ロット生産に対応したボトリング工程の構築

近年、同社は原材料として使用する米の供給先である農家ごとのサブブランドを設け、年間30種類以上の日本酒を生産し、付加価値の高い製品を販売することで収益を確保してきた。しかし、多品種小ロット生産を進めていくためには、既存設備のままであると、ボトリングの失敗（容器の破損等）による商品のロスや従業員の高い作業負荷が大きな問題となる。以上のことからボトリング設備（充填工程）を一新し、高速かつロスの少なく、従業員の作業負荷軽減に繋がる工程を構築した。



ボトリング設備

長年培った自社ネットワークを活用した日本酒の海外展開

かねてより海外への日本酒販売に注力しており、売上高全体の約5%を占めている。これまで、アメリカ、オーストラリア、ドイツ等の欧米諸国への販売が中心であったが、近年はシンガポール、マレーシア等の日本食レストラン、日系食料品店が増加している東南アジア諸国への販売に力を入れている。

海外事業展開においては、長年の業歴を背景とした同社の酒販ネットワークをフル活用し、国内の酒類卸売業者や現地の日系企業・卸売業者へ積極的にアプローチを図っている。



海外で販売している純米酒

域外からの観光客の受け入れ施設の整備

同社は創業130年の酒蔵で、地元・青谷町の伝統産業であることから知名度が高く、個人や旅行会社を通じた酒蔵見学の問い合わせが多い。酒蔵をはじめとした製造現場は目に見えない菌の影響を予防しなければならないため見学することはできないが、敷地内に酒造資料館と直売所を整備しており、青谷町の観光資源の1つとして域外から来られる多くの観光客を受け入れることで、地域の情報・魅力発信に大きく寄与している。



直営の酒造資料館